

1984年わが国で始めての医療の評価基準が出された。次いで1987年に「病院機能強化マニュアル」が出された。これらに触発されて、全国社会福祉施設経営者協議会(以下全国経営協)でも、1988年「社会福祉施設運営指針」というサービス評価を含む経営管理の自己評価基準を出した。そして現在までに、医療では「病院機能評価」、福祉サービスでは「福祉サービスの第三者評価」、介護分野では「介護サービス情報の公表」など、それぞれの分野で代表される評価基準に発展してきている。

全国経営協の運営指針改訂版の検討のため、米国のJCAHO(注1)等に4名で調査に行く機会があった。私も初回の指針の作成に



黎明会だより サービスの「リトマステスト」

社会福祉法人 聖隸福祉事業団

常務理事 武居 敏

かかわっていたためこのメンバーとして参加したが、このとき同行した中に丸山一郎氏(注2)がいた。丸山氏は全国経営協の事務局を担当していた全国社会福祉協議会の障害福祉部長であつたこと、米国での経験もあつたことからこのメンバーに加わっていた。

先日自宅の資料を整理していたところ、「The Signs of Quality」という小冊子が出てきた。翻訳したものは手元にあったのだが、原文の所在がわからなくなっていたのだ。丸山氏が、運営指針改訂版の打ち合わせ会の席で私たちに下さった資料である。これは、丸山氏が米国の障害者のグループから手に入れたもので、グループメンバーが自分たちの受けているサービスに対して提案した、いわば利用者の外形的な評価と、ISOに代表

黎明会だより	
No. 105	
編集・発行 社会福祉法人 黎明会	
〒187- 東京都小平市 0032 小川町1- 485 ☎ 042-346-6611 http://www.reimeikai.or.jp/index.html	

マステスト」と記されている。9つのQ&Aとその説明からなる15ページほどの簡単なものだ。以下、この小冊子に記されているQのみをあげてみると、私のみをあげてみると、私は安全ですか? 私に聞きましたか? 私の健康は守られていますか? 私のプライバシーはありますか? 私の権利や尊厳は守られ、個人として扱われていますか? 私の選択で時を過ごしますか?

私が地域社会の一部となるのにどうしたらいいかを学ぶ手助けをしていますか? 私が受けているサービスや訓練には意味がありますか? 印象のものですか?

そもそも、サービスの質をどのように向上させるかは、私たち医療・福祉サービスに従事する職員や経営管理を担当するものにとつて、最も重要な課題である。しかし福祉サービス評価はまだまだ取り組みが進んでいるとは言いがたい状況である。

また、サービスの「何を評価するのか」という課題に対して、現在使われている多くの評価が、職員の数や資格、必要書類の有無等の外的な評価と、ISOに代表

されるサービスのプロセスを評価するものとに限られている。それは、利用者にもたらされた成果を評価する、いわゆるアウトカム評価といわれるものが、たいへん難しいからである。福祉サービスのような生活に関するサービスのアウトカムは、個人個人によりその感じ方が違い、客観的な指標にすることが難しい。従って、サービス評価というのは、利用者にどのような成果がもたらされたかとうことこそが究極の目的であるはずなのだが、現在使用されているアウトカム評価はほとんどない。

「The Signs of Quality」に示された9のQは、アウトカムを評価する指標となりうる基本的な内容であり、しかも、作成した主体の特殊なカラーのない客観性を持つ指標であると思う。この内容は今でも私の重要な指針となっている。最近私のもとにこの文がでてきたのは、丸山氏の私に対するメッセージであるのかもしれないと思うのである。

注1 Joint Commission on Accreditation of Healthcare Organization: 医療機関の認定に関する合同委員会

注2 丸山一郎氏。東京パリシックの通訳ボランティアの経験を機に障害者福祉を志す。太陽の家、東京コロニーなどの現場経験を経て、厚生省障害福祉専門官、全社協障害福祉部長、埼玉県立大教授を歴任。昨年3月逝去。

古希を迎えるままに

澄水園 保護者

松本 弘子

息子が千葉県の児童施設から、澄水園にお世話になって「光陰矢の如し」早や33年の歳月が過ぎ去りました。楽しい思い出、苦い思い出など多くあります、特に印象に残っていることは、当時東京都主催の体育祭がありプラカードを掲げ入場行進、数ある施設の中で二施設のみ坊主頭、何故かとても異様に写りました。ある日の保護者会で、服装は、老いも若きも十代の少女までもが、年配者に合わせた同じものを着、年齢に合った髪型、服装をさせて頂きたいとお願いしたらどうでしようと意見を述べました。若い保護者の方々は、常日頃同じことを思っていたようで賛同してくれましたが、年配の保護者の方々は、あずかって面倒を見て頂いているだけでありがたいのに、とんでもないと叱られてしましました。それからまもなく、お若い先生方からもお声が上がったらしく、それぞれに合ったものを着せて頂けるようになりました。保護者も嬉しく思ったものでした。

利用者も保護者も、若く活気に満ち溢れ、運動会では騎馬戦とかハードな競技を見事にこなし、今では思いもよらない楽しい行事の一つでした。当時、松尾会長さんはハイキングを趣味とし、年に数回、私達保護者の多くが、秩父、奥多摩、丹沢等々、ずい分遠くまでお弁当持参でハイキングにお呼ばれ下さいました。楽しい思い出の一駒です。お陰さまでそれ以来私はすっかりハイキングにはまり、今でも続いています。保護者会の帰りはいつも赤羽駅近くの「どな」という喫茶店に寄り、暫しのおしゃべりに時には先生もご一緒に、楽しい一時を過ごし帰路に付きました。

平成3年、新しい園舎に越し、利用者も保護者も心弾む嬉しいことでした。保護者も高齢となり、保護者会への出席も減少の一途を辿り、そしてお一人、又お一人ごとに世を去られ寂しい限りです。以前聞いた講演「認知症を予防し幸せな高(幸)齢者になる為に」感謝を受けた内容でした。皆様にも参考になればと思い投稿しました。

認知症の予防

①人と付き合う
②身だしなみに気を使う
③趣味を持つ

④運動をする。周囲を観察しながら無理のないウォーキングは最適

⑤30分以内の昼寝をする
⑥魚、野菜くだもの摂る

幸せな高(幸)齢者になる為に

①プラス思考が出来る
②感謝を忘れない
③自分で気分を引き立てることが出来る
④趣味や好奇心をもつている
⑤好きな人々と楽しい時間を過ごす

⑥健康と少しは経済的ゆとりがほしい

以上です。これらを心に留め、

息子の為にも自分の為にも元気よく明るく生きたいと思い、平成4年から近所の同年代主婦の仲間と15

年間ウォーキングを続けてきましたが、本人、家族が病気になったり今は解散し残念でなりません。

お陰で持病はありますが、悪化す

ることなく現在に至っています。

私は全国組織・障害者の親の会に入っています。理念を守り、会の一員として会

正しく元気に生きたいと思ってい

ます。どんなに重い障害があっても、人間として尊重され当たり前

に暮らせる幸せを願った親たちの会です。私達は親として、兄弟姉妹として、責任の回避を自ら戒めながら子供の命を守り、わずかな成長にも喜び、子供から学び親として成長していくことを誓い合っています。

定年を迎えて
—笑顔をありがとうございます

澄水園 生活支援員 鈴木 瞭子

澄水園で初めて出会ったOさんの笑顔は、今も脳裏にはつきりと焼き付いています。16年9ヶ月前まことに福祉の経験のない私は、不安な気持ちで正面玄関の扉を開けましたが、その明るい笑顔で一步踏み出すことが出来ました。採用されてまもなく先輩スタッフから「福祉の仕事は70%が考えることです。」と教えて頂きました。仕事をしていくうちに、しだいに深みにはまり、自分の力のなさを痛感し焦りました。自分なりにあちこち勉強に出掛けましたが、今思うと横道にそれていたようになります。研修を受けたり利用者の方と接していくことで少しずつ判ってきました。そんな私を一番高めて下さったのも利用者の方であり、元気づけて下さったのも利用者の笑顔と優しいことばでした。

澄水園の保護者の皆様も、施設にお願いしているからもう安心と思うのではなく、保護者としての意識の啓発と連携を密にし、感謝の心を忘れずに、子供達の明るい未来を着実に実現していく為に協力をしています。澄水園の利用者の多くは、自分の意志を充分に表現出来ない話せない方々です。障害の程度も違います。澄水園のお世話は骨が折れ重労働です。

福祉事情も厳しい世の中になってしまった。利用者の皆様が、お健やかで楽しい日々でありますように祈っています。スタッフの皆様もどうぞお元気で、これからも頑張って頂きたいと心からお願ひ申し上げます。

せる
⑥健康と少しは経済的ゆとりがほしい
以上です。これらを心に留め、
息子の為にも自分の為にも元気よく明るく生きたいと思い、平成4年から近所の同年代主婦の仲間と15年間ウォーキングを続けてきましたが、本人、家族が病気になったり今は解散し残念でなりません。
お陰で持病はありますが、悪化することなく現在に至っています。
私は全国組織・障害者の親の会に入っています。理念を守り、会の一員として会正しく元気に生きたいと思っています。どんなに重い障害があっても、人間として尊重され当たり前に暮らせる幸せを願った親たちの会です。私達は親として、兄弟姉妹として、責任の回避を自ら戒めながら子供の命を守り、わずかな成長にも喜び、子供から学び親として成長していくことを誓い合っています。

この仕事で重要なのは「ことば」の大切さです。その方に合った、その場にぴったりの明るいことばです。的確な「ひとつ」とを発することで心も通います。耳の聞こえない方にも「ことば」です。とても難しいといつも反省していました。

澄水園では高齢化も進み、玄関で笑顔で迎えて下さった方も介助が必要です。今年は「大規模修繕」「自立支援法の移行」もあり、大変革の年です。今後の発展を期待します。

陶芸教室では、市役所、社協、民生委員の方をはじめ多くの市民の方々と交流させて頂きながら、様々な行事を経験しました。大変お世話になりました。父の介護のため介護休暇を3ヶ月とらせて頂き、職員の方々には大変ご迷惑をおかけ致しました。ご協力頂きまして本当にありがとうございました。その他にもいろいろとお世話になり、深く感謝しております。保護者の方々にもたくさん元気を頂きました。皆様のご健康と黎明会のご発展をお祈り致します。

給食センター 調理係長

昭和52年7月、黎明会黎明寮の調理員として、勤務してから31年が過ぎようとしています。

顧みれば当時平屋建ての厨房で、栄養士2名、調理員14名で救護施設黎明寮、緊急救護施設あかつぎと施設職員の給食を、栄養士が利用者の健康を第一にと喫食状況を把握し、アンケートで利用者の嗜好調査を行って作成した献立表にしてまいりました。

春はお花見弁当、夏は納涼祭、そして冬は鍋料理にと、特にお正月のお節料理は大好評でした。

昭和59年3月、特別養護老人ホームやすらぎの園の開設にともない、総合規模の厨房を「黎明会給食センター」として、敷地内及び近辺6ヶ所の福祉施設利用者、職員並びに在宅配食サービスとして、1日約1700食の食事をそれぞれの要望に応じて提供してまいりました。

また、調理向上にと救護施設協議会の全国大会、関東ブロック・多摩、立川、小平施設協会主催の調理講習及び調理実習に参加させて頂きとても勉強になりました。

衛生面でも食中毒を起こさぬよう、毎年、多摩小平保健所より講師を招き、食中毒発生防止に関する講習・ビデオ鑑賞などで、食中毒の発生防止に、日頃から嗽や手洗いを実施し、清掃も職員一同の協力を一緒に付添い旅行や、親睦の交流を図る職員旅行も楽しかった思い出の一つです。庄巻は昨年11月、

平成20年度 定年退職者						
氏名	現職種	採用日	備考	平成21年3月31日、平成20年度の定年退職者として次の5人の職員が黎明会を後にしました。皆さん黎明会の発展に寄与されました。これまでのご尽力に敬意を表し、ここにご紹介します。これからも健康に注意され素敵な第2の人生をお過ごしください。		
楠井桃代	鈴木ハルエ	高橋明子	鈴木暎子	澄水園	鈴木久雄	給食センター 調理員
ゆとりあの郷 看護師	ゆとりあの郷 ヘルパー	ゆとりあの郷 看護師	澄水園 支援員	平成4年6月15日	昭和52年7月1日	給食センター(黎明寮所属)係長として勤務
平成16年6月1日	平成3年2月1日	平成3年4月1日	熱海ゆとりあの郷	澄水園生活支援員として勤務	勤続31年	
熱海ゆとりあの郷 診療所 看護科准看護師として勤務	熱海ゆとりあの郷 診療所 看護科准看護師として勤務	熱海ゆとりあの郷 診療所 看護科准看護師として勤務	熱海ゆとりあの郷 診療所 看護科准看護師として勤務	勤続17年	勤続17年	
勤続4年	勤続18年	勤続18年	勤続18年			



やすらぎの園 相談係長

黒澤

徹

施設間交流研修に参加するにあたり、いくつかのテーマを挙げて研修に取り組みました。大きなテーマとして、医療・看護が主体となる病院内で、介護職としての役割、利用者の方々へのサービスの質の向上への取り組み方などです。やすらぎの園に入職してから他の施設の見学はありましたが、半月間の研修の経験はなく、利用者の方々(患者様)の状態や業務処理の方法に思っていた以上の違いがあり戸惑いました。しかし、利用者の方々がいくつかあるだろうとも思つていました。しかし、利用者の方々はコミュニケーションを取れる方が少なく、やすらぎの園では、コミュニケーションを多く取り、名前を覚え、個々の過去や現在の状況を把握するようにしてきた私はなかなか個々の名前や特徴を覚えられず、焦りを感じてしましました。また、申し送りの際や日常業務での看護師が話す医療用語がよく理解出来ず、焦りと不安の前半でした。あるが業務の流れも見えるようになり、単純な比較は出来ませんが、介護職と看護職が一緒に動くことが多いと感じました。特に排泄介助、入浴介助、リネン交換などです。その際に、関わる利

用者の情報の交換や共有などが出来、細かい変化も分かるのは良いと思いました。しかし、介護職と看護職が一緒に動かないと業務が回らないのが現状のようです。

入浴は、機械浴利用者が増えている現状、各フロアに浴槽がなく、入浴を行うにあたり動線が長いという悩みは、やすらぎの園と同様でした。

ケースカンファレンスでは、スタッフが事前に意見をまとめており、とても効率が良いと思えました。

介護職の業務は、利用者と直接関わるほか、多くの間接業務があります。やすらぎの園とは内容の異なる業務もありますが、円滑に業務をすすめることができます。内閣府による上でも必要なことです。そ

の中で、各利用者の小さな変化を見逃さない視点(気付き)を養っていくことが大切だと

思います。

各係や委員会活動も、スタッフが共同で取り組んでいます。責任を持ち活動することにより、スキルアップに繋がっていくのでしょうか。

施設間職員交流研修について

あかつき 介護職

住山浩二

去る、平成20年10月16日からの二週間、けやきの郷併設の『小平市地域包括支援センターけやきの郷』(以下、包括)にて研修させて頂きました。交流研修の要綱にある施設間の相互理解と協力関係の確保といった目的が前

提にあります。個人的には、包括が比較的新しい事業で(平成18年4月創設)未知な部分が多く、また、社会福祉士が、総合相談支援・権利擁護業務を担う専門職として必須とされている点も興味深いところでした。

私は、介護保険分野での業務は未経験であり、日々の業務がどのような根拠に基づいて行なわれているのか?戸惑いの連続でした。

『包括』という名称から、総合的な支援が主な業務であるということはなんとなく想像出来ましたが、『要支援』の方に特化し、介護予防の立場に重点を置いて業務を遂行されていると、いうことが新たな認識となりました。

法人内の施設で研修したことにより、短期間でしたが自分が得られたこと、感じられたことはかなりありました。それらを今後の業務に繋げていくには、私自身がもっと多くの知識を得て、やりがいを失わず働いていくことだと思います。病院職員の皆さま、研修中のご指導ありがとうございました。あかつきにおいては、介護組みが主流であり、参考にすべき視点であると感じました。日々の業務は、地域の方からの相談を窓口的に待つ、というよりも、地域高齢者の福祉ニーズを開拓すべくアウトリーチ的取組みが主で、自ずと家庭訪問が多くの比重を占めている印象が強かったです。市からの情報提供等による特定高齢者(介護予防の取組みが今後必要かも知れない方)の把握では、まさに「初めまして」の訪問であり、あかつき地域支援事業(施設退所者が主)のそれとは違った緊張感、スタンスを感じることが出来ました。

また、訪問同行した中では、精神疾患(症状)をお持ちの方が意外と多いように感じました。一方で、あかつきの通所利用者の方は、高齢化が進行しています。このようないふな状況下で、あかつきの精神保健に関するノウハウと、包括の高齢者・介護福祉に関するそれとが、互いに補い合えた良さのではないかと感じました。

あかつきの通所利用者の方がお住まいの地域と包括が抱える圏域は重複をしており、事業形態こそ異なりますが、「黎明会」として、あらゆるルート、スタンスで地域にかかわり、浸透していることが実感出来た研修でした。

ご指導、ご協力下さいました皆様、ありがとうございました。

のぞみ作業所

支援員

松田 紘明

今年で勤続10年目になります。今年の職場以外で勤務をした経験はありません。研修ではあります。が今回が初めての事になります。又スレッやネクタイをして勤務したのも今回が初めてでした。そんな初めてのことが多く、私の研修先は法人本部でした。事務系の業務も始めてでした。

研修は不安と緊張からスタートだたことを見ています。法人本部の業務が自分に務まるのかという思いや慣れない環境に対する不安からです。その一方では普段と違う業務に対して新鮮さを感じました。その為、やる気だけは強かったです。その一方では普段と違う業務に対する課題として研修プログラムが作成されました。研修では法人本部の業務を知ることが大きな課題として研修プログラムが作成されました。今回の交流研修を通して学んだことは、法人本部の役割の大切さでした。法人の統括と言つてしまえば一言で済んでしまいますが、法人が今後も継続していく上で重要な財務の面から考るとともに、そこで働く従業員が安心して業務が遂行出来るように環境を整える役目も担っていることを知りました。

私は交流研修を通して一番感じたことは、不慣れな業務を行つていく中で、色々な面で助けてもらつたことで、2週間という研修期間がとてもよい経験となつたことです。人の事を思い、考えて接することの大切さ、私自身に足りない部分であると感じました。そ

ういう意味でも大変勉強になりました。今後、仕事に従事していく中で思い出し気を付けていくとともに、仲間を大切にしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

施設だより

澄水園 副施設長 中村 信市

大規模修繕について

澄水園は、平成3年、それまで住んでいた赤羽を後にし、同年3月に小平に移転してきました。その時までの住まいは、木造2階建でしたので、最初に見た澄水園は、利用者にとって、あまりにも大きく見えたのでしょう。皆がビックリしたのを憶えています。移転当時は車椅子を利用する人は全くいませんでした。以来、歳月を重ねる中で生活環境と生活実態がそぐわなくなりました。現在では約20人の利用者が車椅子を使用しており、多くの方が職員の手助け無しでは歩行が困難となつてあります。このような理由で、20年度事業として大規模修繕の助成申請をしたところ、思いもよらず修工事を行なうことになりました。

昨年末、施工業者も決まり、本年1月初旬より着工、竣工が21年7月末の予定で工事が始まっています。主な改修部分として①現在、二つある浴室の壁を抜き一つの浴室とし、その中に大きな浴槽と特殊

そのことにより、今までの4人部屋が3人部屋になるので、居室を3階部分に増設する③各部屋・トイレ等の間口を広げ、車椅子の出入りが出来るようになります。④空調は、今までのセントラルシステムを個別化し、個々の部屋で温度調整ができるようになります。⑤食堂の天井を高くし、多目的に利用しやすい空間にする等です。以上のように、特に、お年寄りの方が生活しやすい、優しい環境にすることを目的としております。

工事の工程として、3階から工事を始め、2階・1階・地階と行くことになつております。現在は3階部分の工事を進めていますが、はつり等の工事が行なわれて終わるの、早く引越しをしたいところですが、はつり等の工事が行なわれて終わるの、早く引越しをしたいところですが、その通り利用者がおりますが、そのような時は、工程表を指差しながら「ここまで待つてね、そうしたら『ここまで待つてね、そうしたら』等話しながら理解をしていただいております。利用者にとって工事期間は、法人内の施設を作業場として使用したり、入浴をお借りする等慣れない生活の期間となります。が、出来るだけ心地よい環境・支援の提供を行ないたいと考えております。工事期間中は近隣の方々を初め法人内施設の方々には工事車輌の出入りや騒音等により大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒宜しくお願いいたします。何よりも工

事が安全に終えることを願つております。

社会福祉法人

東京福祉会助成事業

黎明寮

の4階では日中活動の一環として、製袋作業を行つております。内容としては企業やイベン

浴槽を備える。脱衣室も壁を抜き空間を拡張する②畳の部屋をフローリング化して、全室ベッドにする。

事が安全に終えることを願つてお

救護施設
黎明寮 施設長

小林健治

平成21年1月15日に特別養護老人ホーム「やすらぎの園」から救護施設「黎明寮」に異動で着任しました。やすらぎの園では4年9ヶ月程、特別養護老人ホーム・ショートステイ・通所事業・訪問給食をご利用いただきました皆様方やご家族様、そして多くのボランティアの方々のご厚情に感謝申し上げます。

現在、我が国も先の見えない経済不況に見舞われ、医・職・住を確保できない多くの生活困窮者を排出する時代的状況を呈し、種々のマスメディアに「生活保護」の情報が伝えられています。被保護人員は160万世帯、保護費総額も2.5兆円超となっています。

このような時に、51年を経た歴史ある黎明寮で、初めて生活保護施設での仕事に携わることとなりました。戦後間もなく、国民全てが生活困窮者となつた中、黎明寮は、いち早く膨大な人々に住む施設を提供し、衣食を支給し、さらには傷病者に対して診療を行い、その後も、先達の方々は、社会経済状況に応じて施設を創設し、現在、小平地区には、保健・医療・福祉の総合的機能を生かせる施設があり、包摂的なサービスを提供す。

できる状況となりました。救護施設としては、地域におけるセーフティーネットに加え、近年、精神障害者や生活障害者といわれる難しい課題を抱えた方々の利用が増えています。そこで、今後の救護施設を考えたとき、従来の生活保護法の規定による施設利用者の受け入れだけではなく、多様なニーズに対応し自立支援プログラムとの関連や様々な生活課題を抱えた方々へ対応するため、より専門性を持った施設としての役割がますます期待されるものと思われますので、研修会や種々の会議等に積極的に出席して、時代が求めるニーズに対応できますよう努力して参ります。

黎明寮は、施設内・通所・在宅の方125名程の自立生活支援を行っています。職員等の支援者は、お一人おひとりの利用者がサービス提供の選択にあたり、自己決定を最大限尊重し日々の暮らしが心豊かに、黎明寮を「家」として生活する方、また、高齢化・重度化は顕著ですが、さすがに平均年齢87歳で、6名の百歳以上の利用者さんがおられるなど、職員が進取の気風を取り入れ、救護施設に求められる事業を一步一步着実に実現し、黎明寮の歴史の1ページが飾れますよ。

百年に一度の大不況と言われる中で迎えた新年の1月15日付けて、施設長の大任を拝みました。責任の重大さに身の縮む思いでござります。もとより力のない私ですが、皆様のご指導を賜りながら、代々の施設長同様に宜しくお願ひ致します。

黎明会に入職して三十余年になりますが、介護業界に身を置くのは初めてで戸惑つております。

一日も早く入所者さんと親しくお話ををして、信頼関係を構築し和気藹々と過ごしたいと願っています。今日どの施設も、入所者の方から職員や施設に対する努力いたす所存ですので、ご家族の方々や地域の皆様、そして関係各位のご協力とご指導ご鞭撻を賜りたく宜しくお願い申し上げま

特別養護老人ホーム
やすらぎの園 施設長

吉田春夫

百年に一度の大不況と言われる中で迎えた新年の1月15日付けて、施設長の大任を拝みました。責任の重大さに身の縮む思いでござります。もとより力のない私ですが、皆様のご指導を賜りながら、代々の施設長同様に宜しくお願ひ致します。

黎明会に入職して三十余年になりますが、介護業界に身を置くのは初めてで戸惑つております。

平成20年12月に21年度の介護報酬改定が示され、介護報酬アップの報道に現場は活気づきました。ここ数年介護現場では人材難等が深刻化し、介護崩壊の瀬戸際まで追い込まれるという状況でした。このような難局を打ち破り、高齢者介護の本来の目的である、「いつでも・どこでも・だれでも」が介護を受けられ、社会保障の最後の砦として社会的責任を果たすべく、適正な介護報酬の引き上げがなされたことは、大いに意義のあることと評価すべきことです。

今回の改定の基本的視点として、介護従事者の人材確保と待遇改善及び医療との連携や認知症ケアの充実そして効率的なサービスの提供等が示されています。

これらのことを全ての職員が理解し、質の向上を図らなければ、求められている役割を果たしていくのは難しいと思います。

入所者の方から職員や施設に対して求められることはますます増えてくることと思います。それらを汲み取って介護サービス・介護計画に反映させていくことが大事なことと考えます。

音楽クラブのぞみ作業所

アコーディオン奏者 高居善裕

私はご縁がありまして、のぞみ作業所に毎月第3土曜日、1時30分より3時まで音楽のサークルで、アコーディオン奏者をしている者です。第1回目は平成20年3月でした。最初は、アコーディオンの演奏を聴いてもらうことから始めました。皆さん知つてそうな曲、5～6曲を演奏しました。あらかじめ選曲しておいた曲で、皆さんの歌声を聴き、このパワーがあれば2回目は大丈夫だと第1回目の感じでした。

第1回目を思い出しながら、楽器を持って玄関を入れると、三人の会員から、大きな声で「こんにちは」と云われ、すかさず「こんにちは」と返事を返し、初対面の者にはマナーが良いなど好感が持てました。会場に入るとき、会員の皆さん元気な挨拶があり、早速、歌を始めました。知てる歌は大きな声で唄い、好調なすべり出しでした。

私はデイケアの老人が対象でしたので、皆さんのパワーに圧倒されどうしでした。若い人達は活気があって良いなと羨ましく思いました。



音楽クラブ活動

面白で明るく優しい人達だなあと理解しました。今日も、皆さんの元気な挨拶の中身はこう聞こえました。今日も元気に無事仕事を終わり、昼休みも終わり、サークルの時間を待つてました。と聞こえてきました。元気な声でリクエスト曲をもらい、楽しい時間を皆さんと過ごさせていただいています。

私も、皆さんも元気でこの1年を過ごせることを望んで居ります。のぞみ作業所の職員の皆さんよろしくお願いいたします。



送迎用日産キャラバン

◆新しい送迎車を購入
介護老人保健施設「けやきの郷」では、日本財團から2008年度福祉車輌助成金の交付を受け、平成21年1月に「日産キャラバン」車いす対応車を購入しました。

この車はデイケアの送迎用に使用します。これまで使用していた車は購入してから10年を経過し、補助ステップ等がなくご利用の方にご不便をおかけしていましたが、新しい車は全自动リフターに加え、電動スライドステップや大型の昇降用手すりも備えており、乗り降りの負担軽減や

した。初めはこんな感想をもちましたが、2回、3回と回数を重ねると、皆さん男性・女性共に、眞面目で明るく優しい人達だなあと理解しました。今日も、皆さんの元気な挨拶の中身はこう聞こえました。今日も元気に無事仕事を終わり、昼休みも終わり、サークルの時間を待つてました。と聞こえてきました。元気な声でリクエスト曲をもらい、楽しい時間を皆さんと過ごさせていただいています。

◆新規事業開拓
会は理事長の挨拶で始まり、諸規定の一部改正（案）等について審議し、承認されました。（岩本）

◆新しい送迎車を購入
介護老人保健施設「けやきの郷」では、日本財團から2008年度福祉車輌助成金の交付を受け、平成21年1月に「日産キャラバン」車いす対応車を購入しました。

この車はデイケアの送迎用に使用します。これまで使用していた車は購入してから10年を経過し、補助ステップ等がなくご利用の方にご不便をおかけしていましたが、新しい車は全自动リフターに

◆1月 日帰り旅行
黎明寮では、去る1月29日、利用者8名と付き添い職員7名の計15名で、川越へ日帰り旅行に行つてきました。

昼食には川越特産のさつまいも（丸十）を使用した豪華な芋会席料理に舌鼓し、その後川越の街を散策しました。

車椅子移動の利用者が多く、まつり会館、菓子屋横丁付近しか周れませんでしたが、散策中は普段の生活の中では見られない笑顔が見られ、年に一度の旅行を楽しんでいただけたのではと思います。（鈴木）

施設リポート

安心につながると職員一同喜んでいます。ありがとうございました。

(足立)

◆平成20年度

第3回理事会・評議員会

平成20年12月19日16時からアルカディア市ヶ谷において、平成20年度第3回理事会・評議員会を開催しました。

会は理事長の挨拶で始まり、諸規定の一部改正（案）等について審議し、承認されました。（岩本）

◆救護施設黎明寮新年会
施設黎明寮の食堂で、新年会を行いました。

毎年恒例となつている施設内行事で、パーティの業者さんを呼び入れて、利用者様に、おいしい御料理を楽しんでいただきました。

クリスマス会と、新年会を毎年順番に行つており、今年は新年会なので、二人羽織と、大正琴の演奏貫井囃子保存会様のお囃子を出しものとして楽しんでいただきました。今後も楽しんでいただける計画を行つていただきたいです。（木村）

